

2014年1月14日

SAAJ NEWS RELEASE

討議資料「財務報告に関する概念フレームワークの見直し」 について意見書を提出

公益社団法人 日本証券アナリスト協会（会長：大場 昭義 東京海上アセットマネジメン
ト投信株式会社 代表取締役社長）は、2013年7月に国際会計基準審議会（以下 IASB）が
公表した討議資料「財務報告に関する概念フレームワークの見直し」についての意見書を、
1月14日（火）に IASB へ提出しました。

【意見書のポイント】

- ✓ 討議資料の内容は、混合測定や純利益の表示を認めるなど、数年前までの IASB に比べ
ると関係者の声を反映した現実的なものとなっていることを高く評価したい。一方で、
純利益を財務諸表の構成要素と認めないこと、その他包括利益（以下 OCI）のフルリサ
イクリングを明確にしていないことなど、改善が必要な点もある。
- ✓ 純利益は、税金を含む全ての費用を支払った後で株主に帰属する当期の利益として極め
て重要な指標である。我が国の企業会計基準委員会（ASBJ）は純利益を定義すべく検討を
行っており、IASB が同様の方向で検討を進めることを強く希望する。勉強会参加者へ
のアンケート調査でも、63%の回答者が純利益を財務諸表の構成要素に含めはしっかりと
定義すべきと答えた。利益の定義は困難であっても、これを避けるべきではない。
- ✓ OCI に認識された評価差額の全ては、一定のトリIGGERをもって純損益にリサイクルす
べきと考えている。この理由は、OCI 項目は株価や為替レートなどの変動によって上下
するので、この認識が中止され、従って価値変動が停止した場合には、確定損益を純利
益に認識し、その他包括利益累計額（AOCI）に計上されていた金額を留保利益に振替え
る必要があるためである。仮に OCI 項目を全てリサイクルしないと、純利益累計額
と資本取引を除く留保利益額が一致なくなり、利益指標としての純利益に脆弱性が生
じる。純利益が広く用いられている現状を鑑みると、純利益を堅牢にするためにフルリ
サイクルが必要である。

【添付資料】

資料1 *re: Comments on Discussion Paper*

“A Review of the Conceptual Framework for Financial Reporting”

資料2 討議資料「財務報告に関する概念フレームワークの見直し」についての意見書

本件に関するお問い合わせは下記まで

日本証券アナリスト協会

電話：03-3666-1577

担当：教育第一企画部長 かいます 貝増 眞